

## 令和4年度 第2回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日 時> 令和5年3月6日(月) 10:00~12:10

<場 所> 宇治市産業会館 多目的ホール

<出席者> (委員:20人出席/24人中)

安藤会長、迫副会長、足立委員、笠原委員、熊澤委員、工藤委員、竹内委員、平井委員、藤井委員、松村委員、好田委員、池田委員、上西委員、岸委員、北川委員、中村委員、前畑委員、杉本委員、松井(敏)委員、本山委員

(事務局:24人)

教育部 北尾教育部長、上道教育部副部長、林口教育支援センター長、  
吉田教育総務課長、吉田学校管理課長、前田生涯学習課長、  
岡野学校教育課長、金久教育支援課長、吉川学校改革推進課長、  
福祉子ども部 福井福祉子ども部長、柏木福祉子ども部副部長、河田地域福祉課長、  
畑生活支援課長、山下障害福祉課長、川崎子ども福祉課長、  
栗田保健推進課長、須原保育支援課長、鶴谷保育支援課副課長、  
永池子ども福祉課副課長、齊田保育支援課主幹、山本保育支援課計画係長、  
久保子ども福祉課子育て企画係長、佐々木子ども福祉課子育て企画係主任、  
加藤子ども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 1人

<会議内容>

### 1 開会

【会 長】定刻になりましたので、会議を開会します。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

### 2 報告

#### (1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について

・事務局より、資料1「特定教育・保育施設及び特定地域保育事業の利用定員について」に基づき、説明が行われた。

【委 員】定員数について確認したいのですが、定員の増加にあたり施設は拡張するのでしょうか。もしくは、施設の拡張等を行わず、定員のみ増加するのでしょうか。

【事務局】施設の広さについては基準を満たしており、拡張はしませんが職員体制の拡充を行うと聞いております。

【委 員】ありがとうございます。子どもの定員が30人増えると、遊べる面積が十分に確保されているか心配でしたので、質問させていただきました。

【委 員】宇治市の人口や出生数の偏りが大きく、今後より大きくなっていくと思いますので、需給調整が重要になってくると思います。一方で、単なる利用定員で考えるのではなく、子どもの居心地や機能面等を考慮し、需給調整においては全市で考えるのではなく、地域ごとにきめ細やかな見方を行うことが

望ましいと感じています。

【事務局】 当然の事ながら、子どもの安心・安全や適切な保育環境は確保していく必要があると考えております。先ほど申し上げました基準は、最低基準の面積ですので、今後も環境につきまちはしっかりと確保していきたいと思っております。また、委員から指摘のありました、少子化が進む中の需給調整については、地域等の事情を考慮してまいりたいと思っております。

## (2) こども家庭庁の概要について

・事務局より、資料2「こども家庭庁の概要について」に基づき、説明が行われた。

【委員】 宇治市の体制について、令和5年度は見直さないとのことでしたが、後述の乳幼児教育・保育支援センターの様に、福祉と教育と一緒に取り組む事業は近年増加傾向にあると思っておりますので、組織体制は見直していくべきだと思います。令和5年度は実施されないとのことでしたので、今後どのようにするか事務局の意見をお聞かせください。

【事務局】 配布資料2の1頁で国のこども家庭庁関連予算の基本姿勢が示されておりますが、こども家庭庁で取り組む予定事業については、所管課は分かれておりますが、令和5年度時点では、現行の組織で取り組むことができると考えております。また、令和5年4月より、宇治市では乳幼児教育・保育支援センターの準備室を設置し、宇治市の就学前施設（幼稚園、保育園、認定こども園等）の子どもたちを一体となって小学校へ繋げていく事業を進めてまいります。このセンターにつきまちは、福祉と教育の職員が兼務という形で連携して子育て支援に取り組めます。今回、こども家庭庁設置に伴う組織の改編はありませんが、今後も乳幼児教育・保育支援センターをはじめ、福祉と教育が連携し、子育て事業に取り組んでいます。

【会長】 配布資料2の1頁にこどもの居場所づくりの事業の一部に放課後児童クラブが示されておりますが、放課後児童教室は示されていません。約4、5年前に、国より放課後児童クラブと放課後こども教室は運営や連携を一体的に行うよう通知があったかと思っております。例えば、小学校の授業終了後、長時間1人で家にいる子どもがいる状況も見受けられますので、少しでも地域の中で交流できるよう、検討課題として捉えてほしいです。

【事務局】 宇治市における放課後こども教室については、現在3カ所にとどまっています。一方で、放課後児童クラブ（宇治市においては、育成学級）のニーズが高く、放課後こども教室との一体化まで進んでいないのが現状です。今後も福祉と教育が連携して、こどもの居場所づくりを考えてまいります。

【会長】 また、保育所の待機児童問題は地域差もありますが解消傾向にあると思っております。一方で、放課後児童クラブの待機児童が現在から今後にかけて発生すると思っておりますので、検討していただけたらと思います。

【委員】 現在子育て中ですが、子どもが小学校1年生に進級する際には、親が仕事を相当調整しないと見えない現状があり、小1ギャップに不安を感じています。例えば、就学前の子育てを行うのに、時短勤務をしていますが、勤務先によっては小学生になると時短勤務の制度がなくなるところもあります。こども家庭庁設置に伴い、子どもに対しての切れ目のない支援はイメージできるのですが、親に対する支援も考えてほしいと思いました。

- 【委員】小学校1年生になる児童を持つ親は、未就学の子どもの子育てを行っていることでもありますので、私も親に対する支援は必要だと思えます。
- 【事務局】宇治市の育成学級においては、保護者の継続的な仕事を確保するため、育成学級申込一斉受付期間に申請された方については、定員を超えても受け入れを行っています。一方で、委員からご意見をいただきました、子育ての不安や小1ギャップの課題については、客観的に認識するのが難しいと感じています。先程説明しました乳幼児教育・保育支援センターでは、子どもに対する切れ目のない支援について準備室を立ち上げていくところですが、お子さんを養育する保護者の目線も取り入れ、より子育ての不安を少なく、子育てができる環境づくりを検討してまいります。
- 【委員】宇治市において保育所の格差がなくなるよう尽力いただいていると思いますが、子育てサークルにおいて、保育所の入所希望がすべて通らず、今後の仕事への不安を泣ながらに話すお母さんがいました。保育所の定員については、市全体で見ると満たしているように思いますが、特定の地域で働きたい要望や車を持っていない等の個々の事情がありますので、地域の格差をなくし、すべての保護者が仕事と子育てを両立できるようにご尽力いただけると幸いです。
- 【事務局】保護者の方が困っている状況について理解しました。現在、新年度の保育所・認定こども園の入所については調整中でございます。各家庭により状況を考慮しつつ、空きのある保育施設への入所調整等をさせていただきたいと思えます。
- 【委員】障害のあるお子さんは、保育所にいけないことが多いです。その大きな理由は、子どもを看護するために働けないことです。保育所で障害のある子が、同年代の子ども達と一緒に育つことはとても大事だと思います。一方で、一緒に育つことが満たされていないのが現状で、障害児の視点が欠けているように感じます。例えば、療育を週2回行くと、保育所には行けません。また、療育終了後に通える保育所はありません。同年代のお子さんと一緒に育つことができない現状について、大きな課題だと感じています。また、放課後についても、宇治市の育成学級や放課後児童教室にも大方通うことができません。そして、昔と比較して少しの発達障害であっても、地域の学校の支援級に通えず、府の支援学校に入学することになり、支援学校の児童数は年々増加傾向にある実態です。保護者からは、支援学校に入学すると地域の中での存在が薄れてしまい、寂しい思いをしているとの意見も聞きます。療育の時から卒業まで総合的に考慮して、障害者支援に注視していただければと思います。
- 【事務局】今年度、京都府では医療的ケア児を対象とした育成検討委員会が新しく設置されました。医療的ケア児につきましては、手帳だけでは把握が難しいため、どのような状態の方が何人いるのかを総合的に把握するアンケート調査を行っています。また調査の中で、何人の方が支援に繋がっておらず、どのような支援を求めているのかを改めて把握していく予定です。宇治市においても、京都府と連携し、適切な支援に繋がっていきたいと考えています。
- 【委員】医療的ケア児について、野田聖子さんの講演会が行われました。お子さんが、医療的ケア児であり、著名な方が講演を行うことで、子育て中の方への励みになったと思います。講演でも触れられていましたが、地域の保育所に入所したいけど、入所できない保護者の声を拾っていただきたいです。特に障害児の子どもは自分の意見を言うことができない子が多いので、親の意見を行政が聞くことのできる状況を作ってほしいと思います。

【事務局】支援学校の児童が増えているというお話でしたが、小中学校においても特別支援学級や通級指導教室に通う児童が増えているというのが状況です。令和5年度教育部においては、「多様な学びの場創造事業」として京都府と連携し、障害や個々の特性に応じた学びの場を研究していき、支援体制の強化を図っていきたいと考えています。

### (3)(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターについて

・事務局より、資料3「(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターについて」に基づき、説明が行われた。

【委員】公立幼稚園の統合が決定し、現在の東宇治幼稚園を中心に統合されていく予定です。宇治市乳幼児教育・保育支援センターの準備室が令和5年度にできるとのことですが、令和5年度から東宇治幼稚園に出入りすることがあるか具体的にご教示願いたいです。また、乳幼児教育・保育支援センターと幼稚園のバランスについてお聞きしたいです。

【事務局】まず、宇治市乳幼児教育・保育支援センターの準備室は庁内組織と位置づけ、就学前の施設等の方に委員として参加してもらいながら、運営していく予定です。基本的には庁内で活動しますが、東宇治幼稚園に限らず現場の状況を視察等に伺うことはあるかと思えます。次に、乳幼児教育・保育支援センターと幼稚園の連携ですが、同じ敷地内の施設として、幼稚園においては乳幼児教育・保育支援センターの研究や研修をプラスに捉えていただき、乳幼児教育・保育支援センターについては、幼稚園の現場で研究の実践等していければと思います。施設整備面も含めて令和5年度に具体的に検討していこうと思います。

【委員】ゆめりあうじに地域子育て支援基幹センターが設置されていた際、事務所の方が明るく、行くだけで不安を解消された経験がありました。今後、乳幼児教育・保育支援センターを設置するにあたり、幼児教育に精通された方を雇用するかと思えますが、多様な人材を雇用するように心がけてほしいです。

【委員】宇治市乳幼児教育・保育支援センターでは、おそらく乳幼児の現場に関わっている方が、日々の学び等をスキルアップする場所だと思えますが、1歳くらいまでのお子さんは在宅保育をしている場合が多いと思えます。市内10カ所ある地域子育て支援拠点では、在宅保育中に親子を支援する上で重要な役割を担っていると思えます。私の団体では、2008年頃は親子が交流する場所に集うことで、保護者が元気になっていく傾向がありましたが、昨今のコロナ禍では、赤ちゃんの育て方がわからない等の悩みを抱えた保護者と関わるが増えてきました。地域子育て支援拠点では、保育士等の資格を持った人も多いですが、保育士資格が要件でないので、資格を有しない人も従事しています。そのため昨今は、今まで経験のなかった赤ちゃんを育てる人への的確なアドバイスを求められるようになってきています。どのように保護者にアドバイスしていくかは大きな課題になってきています。保育所等は研修等が充実していますが、民間の団体への実施はありません。保護者への専門的なアドバイスや支援を行う上で、地域子育て支援拠点も連携していけたらと思います。

【事務局】就学前のお子さんについては、どういう言葉で伝えるのかは大事なことだと思います。ゆめりあうじにあります「げんきひろば」は、民間委託後もICTに関する取り組み等も含め、明るいひろば作りに努めていただいています。地域子育て支援拠点の今後ですが、こども園や保育士等の施設の人事交流や研修、小学校への繋ぎをどうするかを検討しています。親子に対してどう接するかについては、各地域子育て支援拠点で情報を交換しているところですが、乳幼児教育・保育支援センターで活かせることがあれば地域子育て支援拠点と連携していけたらと思います。

【委員】宇治市乳幼児教育・保育支援センターでは、保育園に所属する保育士の研修として発達子育ての支援や小学校へ繋げていくと思うのですが、幼稚園や保育園に所属していない保育業務へ関わる方へのサポートが課題だと思います。また、子どもに対する家庭の中での教育力が低下していると言われていています。家庭の中で赤ちゃんとどう接するか等の基本の部分が欠如した中で、子どもが成長してしまう世の中になっていると思いますので、どこにも所属していない人達への支援を充実させていくための予算の検討は必要だと感じています。

【事務局】宇治市乳幼児教育・保育支援センターの準備室を立ち上げていく中で、連携については度々議論を行っている状況です。また、研修を実施するにあたり、できるだけ多くの方に研修に参加してもらえよう検討しております。とりわけ、子どもの健やかな成長については、保育所や幼稚園だけではなく、全体で支援していけるような研究・研修の在り方を、検討委員会等を立ちあげながら実施できるようにしてまいりたいです。

【委員】0歳児に対する支援は、全国的に不足していると思います。例えば、子どもに声かけをしないで子育てを行い、1歳になってもしゃべらないとの相談を受けました。そのため、0歳児から支援を行えば、保育園や幼稚園に入所等した際の負担は軽減できると思います。保護者が保育園や幼稚園に入所・入学する前に、こちらとしても伝えてあげたいことがたくさんあります。その際、単なる日常的な助言でなく、研修を受けた上での専門的な助言をできる方が保護者の助けになると思いますので、乳幼児の支援の中に、在宅児の支援についても検討してもらいたいです。

【委員】研究の内容については、公表等を行い、情報発信していくことが大切だと思いますので、工夫をよろしくをお願いします。

【委員】研修の対象について、教員等が挙げられていますが、教員は日々の業務に追われており、負担が大きいです。現場教員の負担にならないような工夫もお願いします。

【事務局】来年度から宇治市乳幼児教育・保育支援センターの準備室を立ち上げますが、これからどのようにすれば、子どもが安心、安全かつ健やかに育つことができるかについて、幼稚園、保育園、認定こども園等と連携して準備を進めています。委員からご意見がありましたとおり、地域子育て支援拠点等の意見も踏まえて進めていきたいです。また、在宅児につきましては、宇治市保健推進課の事業において10カ月健診等に従事する保健師とも連携し、組織として横断的に対応したいです。

【委員】乳幼児教育・保育支援センターは、市で初めて作る施設でしょうか。または、他市に前例があり、宇治市でも立ち上げていくのでしょうか。

【事務局】宇治市では初めての取り組みとなります。他市の例ですと、教育センターという形でご指導いただく先生方の発達・子育てに関するスキルアップを行う取り組みとなっています。

【委員】療育のことについて、意見させていただきます。療育に通うとなると、フルタイムで働きたくても働けない方が大勢いると思います。子どもは大事ですが、できないことも多いです。例えば、療育に通うとなると一緒に行く必要があり、午前中で修了するため、その後一緒に過ごさないといけません。子どもと過ごす時間はとても大切ですが、各家庭の事情により、行きたくても行けない場合もあります。また、子どもは、同じような年頃の子どもと遊んだり、触れ合う事で、言葉が少しずつ出てくるようになり成長すると思います。決まりの中に上手く入れないお子さん

については、希望すれば他の子ども達と同じように過ごせる場をもう少し設けていただけたらと思います。

【事務局】3つの柱の一つとして、発達・子育ての支援を掲げていますので、様々な視点や意見を頂きながら、どのようにして就学前の子ども達が過ごしていけるか等のご意見を聞き取りながら進めてまいりたいと思います。

【会長】地域福祉計画の中に、地域包括支援センター構想が示されていると思いますが、この構想と乳幼児教育・保育支援センターの関連はどうなっているのでしょうか。

【事務局】令和4年より地域福祉計画の策定がスタートし、地域全体を皆様で支え合っていくことを目的としております。乳幼児教育・保育支援センターを、地域包括支援センターとどう関連付けるかは難しい問題ですが、地域での教育・保育の関わりや視点は考えて、地域の方において何が出来るかについても考えてまいりたいと思います。

#### (4) 令和5年度 予算概要について

・事務局より、資料4「令和5年度予算概要<抜粋>」、資料5「令和5年度予算概要<抜粋>」に基づき、説明が行われた。

【委員】配布資料4「令和5年度予算概要<抜粋>」2頁上段の「子育てにやさしいまち実現プロジェクトの推進」について、小倉エリアと木幡黄檗エリアを選定した理由を教えてください。また、今回新たに選定した地域について、黄檗公園や西宇治公園と関連するのであれば、市が地域の公園をどのように捉えているのかご意見を頂きたいです。そして、同資料4頁上段に「子ども達の学びをはぐくむ教育の推進」事業の中に、アイススケートチャレンジ事業がありますが、ターゲット層も含めて概要を教えてください。

【事務局】子育てにやさしいまち実現プロジェクトの推進事業のモデル地域については、公園の関係だけではなく、地域で子育てを広げていくことを狙いとしています。今回は、総合的に判断した上での選定となっています。また、地域の公園の活用方法については、検討しながら進めていきたいと考えております。

【事務局】アイススケートチャレンジ事業は小学校4年生を対象に、市内のアイスアリーナと連携して宇治市立在籍児童への多様な運動経験として、運動生活の習慣を高め、生涯スポーツとして繋げることを目的とした事業です。

【委員】子育ておうえん環境整備事業費の予算もありますので、0歳から子ども達が集える場所の整備もお願いしたいです。0歳については、おむつ替えの場所の確保や、ハイハイできる場所の確保等、保護者の方の不安解消につながるような整備をお願いしたいです。学びのステップアップ事業について、小学生に弱みや強みの分析をすると思うのですが、弱みを改善する取り組みだけでなく、教員等の現場教員の意見を聞きながら、個々の強みを伸ばすようにご尽力いただければと思います。

【事務局】子育ておうえん環境整備事業については、施設の整備と、イベント等の実施について民間事業者に対して補助をするものです。この2年間、中宇治地域において実施しましたが、地域全体で子育て家庭を応援することを狙いとしており、他のエリアにおいてもこの事業を展開して、少して

も子育て世帯の家族が楽しく安全に過ごしていただけるように事業を進めていこうと思います。

【事務局】学びのステップアップ事業について、宇治市の教育振興プランでも掲げています通り、全ての子どもの可能性を引き出すことを教育理念として掲げていますので、委員から意見がありましたとおり、子どもの弱みではなく強みを伸ばしていくことに賛同するところです。また、この事業の実施が2・3年生ということもあり、基礎能力の更にベースになる部分を保護者の方と学校の教員が共有する中で、児童がつまづかない様に家庭学習に活かしていただきたいとの思いからこの事業を始めています。そのため、各個人が持っている強みを最大限に引き出していこうと思っています。

【委員】大きな公園に焦点を当てるのではなく、子ども達が身近に遊べる環境が宇治市全体でできているのかは大事だと思います。子ども達や親子が、自分の足で歩いて遊びにいける場所や、その環境を温かく見守る地域が宇治市にあるのかを考えて、今後新規の予算等で検討してほしいと思います。また、障害やひきこもり等のしんどい子ども達が多くいると思いますので、子ども達の悩みを聞いたり、受け止める場所が必要だと思います。利用者支援事業として、宇治市では今年中に10か所作る総合計画を公表していましたが、1か所できたところで終わっていますので、身近で相談できる場所を作る必要があると思います。

【委員】東宇治幼稚園において、今年度海外から多くの外国人が来られました。嬉しい反面、幼稚園の先生の語学や文化の違いに戸惑いや負担があったと思います。保育士も幼稚園においても、多様な教育保育の充実のために、必要な人材を確保してほしいです。例えば、日本語教室等を確保することで、外国人の方も安心して子育てできるように支援をしてほしいです。

【委員】昨今、子ども達を見守る環境について、例えば登下校の際に道路で見守ってくれている方が非常に疲弊されている現状です。予算の中で、ボランティアを促進する事業がありましたが、対象が学生になっていますので、地域の人材のモチベーションを向上させ、何かしらの関わりを持てるようにしていただくと、子ども達もより安心して住んでいける環境ができると思いますので、今後ご検討いただくと幸いです。

【委員】子育てやさしいまちプロモーション事業費について、やさしいまちづくりを行う上で、他の自治体では補助金等を活用していますが、先日開催された「こどもまんなかの実現に向けてフォーラム」の様に、企画力で人を集める事業は魅力的だと思いました。また、医療的ケア児等、インクルーシブ教育を進めていくことについて、障害児等を受け入れ、同じ地域で支え合い、自立を促していくことに期待しています。そして、子育て世帯訪問支援事業について、委託とありますが、委託業者の選定に注意し、効果的な事業の展開に繋がるようお願いいたします。また、こちらの事業については、利用者負担が1時間300円～1,500円となっていますが、経済的困窮家庭が多いと思いますので、予算上の検討をしていただけたらと思います。さらに、就学前の様々な研修をされると思いますが、食物アレルギー等について、就学前の保護者から意見を聞くだけでなく、子ども達にも直接食物アレルギーの概要や危険性をお伝えする必要があると感じました。最後に、子ども達の学びをはぐくむ教育の推進について、ICT教育の推進等、様々な事業が提示されていますが、コミュニティースクールの推進となると、実施主体が各校の校長先生になると思います。事業の目的等を説明し、理解してもらった上で事業を進めてほしいです。

【事務局】地域で子どもを育てていくことについて、常に意識して検討し、地域の皆様が疲弊することなく、

モチベーションが向上していくことを目指して検討してまいりたいです。また、利用者支援事業ですが、地域子育て支援拠点との線引きや人の配置等、様々な課題はありますが、尽力してまいりたいと思います。子育て世代の訪問支援について、委員からのご指摘を留意しつつ、早期の実施ができるように取り組んでまいります。

【会 長】家庭に何か問題があって、保育所等に行けていない子どもがどのくらいいるのか、また教えていただきたいです。

#### ( 5 ) その他

【事務局】本日は長時間にわたり、多くのご意見をいただきまして、ありがとうございました。令和4年より第6次宇治市総合計画がスタートし、子育てにやさしいまちを重点に見据え、この一年様々な事業に取り組んできました。障害児や生活の支援について、貴重なご意見を賜りましたが、まずは乳幼児子育て支援センターや、子育てにやさしいまち実現プロジェクトに取り組んでまいりたいと思います。また、宇治市議会において、今日ご説明した事業の予算について承認いただけるように努めてまいりたいと考えています。そして、来年度より宇治市子ども・子育て支援事業計画の次期計画策定に向けた業務が始まります。委員の皆さまにおかれましては、お時間の許す限り、引き続き子育て支援行政にご尽力いただきますようお願いいたします。

閉会